

議会だより

行政報告・補正予算など…	2～3
町政のそこが聞きたい……………	4
一般質問……………	5～7
常任委員会の動き……………	8～9
研修報告……………	10～11



ふれあい卓球サークル(ラージボール)

会員数：13名

練習日：毎週月・水曜日（10:00～11:30）

土曜日にも同時間で練習することがあります。

事務局：小野厚子（弥栄町）

・新しい会員大歓迎 会費は無料です。

発行／北海道標津町議会

編集／広報特別委員会

タイムライン防災・全国ネット ワーク国民会議へ参画

山口将悟町長の行政報告



標津川の想定最大規模の降雨による氾濫想定区域は、標津市街地の大部分となることから、標津川の洪水対策は町として最重要項目の一つと認識している。このため町ではタイムラインと呼ばれる「誰が、いつ、何を」行うかを事前に行動項目として整理する手法を導入し、標津川のタイムラインの策定を令和元年度から釧路建設管理部、釧路地方気象台とともに取り組んでいるところである。

新型コロナウイルス感染症の影響により、当初設定したスケジュールからは大きく遅れてはいるが、今年度中に住民の方たちにも参加いただく検討会を実施したうえでタイムラインを完成させるべく関係機関と取り組んでいる最中である。

道内でこのタイムラインを導入しているところは本町を含め13市町村で、お互いの技術研鑽やノウハウの共有のため、令和元年11月に「タイムライン防災・北海道ネットワーク」が設立され、本町も参画している。

本年5月10日にはタイムラインの全国的な普及と技術研鑽、専門人材の育成を目的として、タイムラインを導入している全国の自治体のうち34の自治体で構成される※「タイムライン防災・全国ネットワーク国民会議」が設立されたので本町も参画した。

※

「タイムライン防災・全国ネットワーク」とは、水害に遭った経験のある自治体など、全国でタイムライン防災に取り組む市町村や都道府県、国土交通省、消防庁、内閣府が取り組みを共有し、連携を深める会議体である。



国民会議設立総会の様子

るので、北海道ネットワーク及び全国ネットワークを通じて技術研鑽を続け、標津川のタイムラインを実効性のあるものに育てより一層、防災・減災対策に取り組んで行きたい。

閉会中の
継続調査

3委員会より、次の通り申し出があり承認しました。

《議会運営委員会》

- ① 本会議の会期日程等会議の運営に関して
- ② 議会活性化対策に関して

《総務経済常任委員会》

- ① 農林水産行政に関して
- ② 商工観光行政に関して
- ③ 地域振興に関して
- ④ 財政管財行政に関して
- ⑤ 行政組織の活性化等に関して

《文教福祉建設常任委員会》

- ① 福祉行政の施策に関して
- ② 教育行政の施策に関して
- ③ 建設行政の施策に関して

● 期限はそれぞれ次期定例会まで

一般会計の補正予算(主なもの) 内容欄の☐は新型コロナ対策の事業

(単位:千円)

項 目	金 額	内 容
デジタル化推進・行政事務等電子化事業	2,020	妊娠の届出に係るオンライン化対応のためのシステム改修及び文書管理システムへのメール連携機能の追加に伴う所要額の追加
標津町起業等支援事業	500	交付決定2件による予算不足額の追加
保健福祉センター照明LED化改修事業	24,138	保健福祉センター内照明、誘導灯等へのLED照明の導入に係る改修工事
子育て世帯生活支援特別給付金給付事業	6,227	住民税非課税の子育て世帯等(ひとり親世帯を除く)に対し、対象児童一人当たり6万円(国5万円、道1万円)を支給【給付見込】6万円×101人=6,060千円 ☐
各種予防接種事業	8,876	HPVワクチン(子宮頸がん予防ワクチン)接種の積極的勧奨の再開に伴う、接種費用の追加(本年度の接種対象者に加え、勧奨差控えにより接種機会を逃した年代への対応)
新型コロナウイルスワクチン接種体制確保・接種実施事業	11,093	4回目の新型コロナウイルスワクチンの接種に係る事務費、人件費、物品購入及び接種費用等 ☐
道路パトロール車購入費	3,319	道路パトロール車1台の故障に伴う更新
体育施設照明LED化改修事業	8,388	鳩ヶ丘体育館及び茶志骨体育館へのLED照明の導入に係る改修工事

条例制定他

「標津町介護保険条例の一部を改正する条例制定」や「北海道町村議会議員公務災害補償等組合規約の変更」「北海道市町村職員退職手当組合規約の変更」「北海道市町村総合事務組合規約の変更」等の4件を原案どおりに可決しました。

諮問案件

人権擁護委員

大木 敏道氏

標津町北1条西3丁目
2番1・112号

〈任期〉

法務大臣の委嘱の
日から3年間

意見書

○2022年度北海道最低賃金改正等に関する意見書

提出者 大垣 勇議員

○地方財政の充実・強化に関する意見書

提出者 山崎 英司議員

○義務教育費国庫負担制度堅持・負担率1/2への還元、「30人以下学級」など教育予算確保・拡充と就学保障の実現にむけた意見書

提出者 石橋 昌幸議員

○森林・林業・木材産業によるグリーン成長に向けた施策の充実・強化を求める意見書

提出者 大垣 勇議員

一般質問

一般質問とは、定例会において、各議員が住民を代表して、行政全般にわたり町執行機関の政策・方針を質す事です。
単に疑問を晴らし、事実関係を明らかにするだけでなく、現行の政策を見直し新規政策を提言する、議員の重要な活動です。

町政のそこが聞きたい

令和4年第2回定例会(6月23日)で3議員が一般質問をしました。
各議員の質問項目とその内容を要約して掲載します。

★小川・石橋両議員は山口町長に対して、吉田議員は山崎教育長に対してそれぞれ表記の項目を質しました。

小川 悠治 議員 ————— 5ページ

- 公営住宅環境の具体的改善を求む！
～中身の伴う「日本で最も美しい村」連合加盟地域を目指して～

標津町では、日本で10番目、北海道で3番目にNPO法人「日本で最も美しい村」連合に登録されました。



10 北海道 標津町(しべつちょう)

知床の玄関口に位置し、日本遺産「鮭の聖地の物語」の中心舞台で。鮭の恵みに支えられ、一万年の暮らしが絶えず続いているまち。品質日本一を誇る漁業と釧根台地に広がる一大酪農郷。縄文時代からあらゆる時代の住居跡が無数に連なり、日本最大の遺跡群が残るポー川史跡自然公園。カヌーに揺られながら、一万年の源流を訪ねてみませんか。



連合のロゴマーク
NPO法人「日本で最も美しい村」

～NPO法人「日本で最も美しい村」連合のガイドブックより～

石橋 昌幸 議員 ————— 6ページ

- マイナンバーカードの町の取り組みを質す！
- 厳しい生活環境!!

生活弱者が安心して暮らせる独自支援策を！



38.2%(令和4年6月1日現在)
標津町のマイナンバーカード交付率

マイナンバーカード



表面 氏名、住所、生年月日、性別、本人の写真



裏面 マイナンバー等が記載、ICチップ搭載

吉田 智 議員 ————— 7ページ

- 標津型学習スタイル

～将来の社会形成者として必要な力を求めて～
SDGsをテーマにした探求学習を！

SUSTAINABLE
DEVELOPMENT
GOALS



SDGsの17目標

地球規模の問題を解決するために国際連合が定めた17の目標です

4 質の高い教育をみんなに



すべての人々への包括的かつ公正な質の高い教育を提供し、生涯学習の機会を促進する



小川 悠治 議員

公営住宅環境の具体的改善を求む！ ～中身の伴う「日本で最も美しい村」連合 加盟地域を目指して～

北海道稚内市は
「日本で最も美しい村」
連合に加盟しています



令和3年11月4～5日に、「日本で最も美しい村」連合の資格審査が行われB評価（A～Dの4段階評価）と判定された。

問 NPO法人「日本

で最も美しい村」連合

の資格審査が、昨年11

月に平成24年以来行

なわれ、B評価と判定

された。（資格審査は、

基本的には5年毎に行

なわれるが、新型コロナ

ナ感染症蔓延等により、

間隔が空いた。）

審査結果で課題とさ

れた点は

●国道沿いの大型廃屋

の対策

●道路に繁茂している

草木

一方、僅か2日間の

審査では目に触れる事

のない町内の実生活

の環境を直視すると、

「日本で最も美しい村」

連合加盟地域の文字が

霞む思いである。それ

は、町が管理すべき公

営住宅周辺の環境が、

劣悪状況であり、地域

住民より大きな不満・

苦情が出ている事であ
る。「曙町曙団地」

景観上の問題だけで

はなく、近隣住民の生

活上の被害にも及んで

いる。町に対して改善

を要請して来たにも拘

わらず、一向に改善の

兆しが見えない。

5月8日、3年振り

に全町一斉清掃が実施

された際、非常識な公

営住宅入居者に対して

の町の無策振りに、批

判続出の状態であった。

長年の不満が鬱積して

いると痛感した。

現下の重点課題は、

左記の通りである。

★敷地内の廃棄物（冷

蔵庫、絨毯他）の処

分

★放置廃車輛（車内が

ゴミ溜め状態のモノ

も有り）、廃自転車

の撤去・処分（曙団

地に6台の車輛）

★著しく汚染された犬
檻（鉄柵）の撤去・

処分

★繁茂している雑草の

処理

以上の点に関し、具

体的改善を望む。

強制的執行は難しい

としても、地域周辺住

民もサポートする前提

で、少しでも前進する

対応を求む。



解体前提の公営住宅の現況（文中の団地とは無関係）

答 懸案事項の公営住

宅環境の改善に向けて、

①政策空き家（解体前

提の公営住宅）に関し

ては、周辺に放置され

ている家電製品、家具、

物置、繁茂する雑草の

処理は管理主体の町が

早急且つ継続的に実施

において、住居周辺に継

続的に放置物がある。

雑草類の繁茂が著しい

場合、入居者に対し、

少し強い指導等の文書

要請と合わせ、訪問に

よる直接対話を行い、

放置物の処理等の指導

を強化（地域の協力も促した

③不要物放置等による

周辺環境の悪化が進ま

ない様、担当部署によ

り細やかで定期的な点

検パトロールの実施

を遂行し、「日本で最

も美しい村」連合加盟

地域の名に恥じぬ景観

づくりを目指して行く。

マイナンバーカードの 町の取り組みを質す！



石橋 昌幸 議員

問 マイナンバーカードを政府が行政の効率化を図るとして国民への普及を進めている中で、標津町の対策を問う。

- ① 2023年3月までの全ての医療機関、薬局で体制を整える方針について町としての対応は。
- ② マイナンバーカード所持者を増やすための町としての対応。
- ③ 町としてマイナンバーカードの利用機会

をどう増やしていくのか。

④ マイナンバー保険証を医療機関で利用すると、追加負担が生ずる。即ち、患者の負担増に繋がってしまうが、町としての対応は。

答 ① マイナンバー

カードの保険証利用に対応するよう取り組んでいる。標津病院では本年3月28日から保険証利用ができる体制を整えている。町内の薬局、診療所では現在のところ準備中または検討中との状況。

② 本年6月1日現在でマイナンバーカード所持率は根室管内で中標津町に次いで標津町は38・2%だ。制度開始

から6年半経過しており順調に進んでいない状況だが、申請のサポートを行うため令和2年2月から特設窓口を設けるなど、必要な情報の提供に努め、今後一層の増加を図って行く。

③ マイナンバーカードの利用機会を増やす対応だが、具体的には子育て、介護、被災者支援、自動車保有関係の4つの手続きが対象となっている。町としては、北海道自治体情報システム協議会に加盟しシステムを共同運用していることから、利用機会の拡大に取り組む。

④ 医療機関を受診した際にマイナンバーカード保険証を利用すると、二割負担の場合では初診で21円、再診で12円、1カ月の間でどち

らかを追加加算することになる。この加算は患者の同意により過去の薬剤情報や健診結果を利用機関等に提供されるメリットがある一方、窓口の負担が増える。

問 新型コロナウイルス感染症、ロシアのウクライナ侵略戦争の影響などによって燃料、食料などの価格がかなりの勢いで上がっている。安心してこの町で暮らして行く上で、生活弱者の独自支援が必要。町の見解を問う。

答 国が示した制度を推進するために、関連政策の窓口をしっかりと果たして行く。町が実施したい子育て世帯生活支援、特別給付金など確実に進めることが

厳しい生活弱者が安心して暮らせる独自支援策を！

る。マイナンバーカード利用促進に逆行するとの指摘もある。マイナンバーカード制度に関し町独自の取組は限定的だが、今後とも適切に対応して行く。

重要だ。本定例会にも一部関連予算を補正予算として提案している。先週、道議会において、高齢者・障がい者世帯を対象とした物価高騰の影響緩和を行う市町村の取り組みに対して一世帯当たり12000円を基準額として、1/2を上限に臨時交付金を充当する制度を決定した。当町としても実施する方向である。

町民が安心して生活して行けるよう対策を講ずる。



吉田 智 議員

標津型学習スタイル

～将来の社会形成者として必要な力を求めて～
SDGsをテーマにした探究学習を！



【SDGsをテーマにした探究学習】を推進し、将来の社会形成者の子ども達に社会の扉を開き、羽ばたける力を育成されん事を期する。

問 SDGsの目標4に「質の高い教育をみんなに」がある。

新学習指導要領は、SDGsを巡って前文において「持続可能な社会の創り手となる事ができる様にする事が求められる」と規定している。世界の課題を「自分ごと」として探究する事は、将来の社会形成者として必要な力を育成する取り組みとなる。

標津町教育委員会は、問題解決的な学習を行う事で、子どもの思考力、判断力、表現力、自ら学ぶ意欲を高める**標津型学習スタイル**を実践・推進し成果を上げて来た。

テーマとした探究学習の推進が必須である。教育長の所見を質す。

答 改訂した**新標津型学習スタイル**の実践より、SDGsの目標4（G4）の達成に繋がって行くと確信する。

活動によりG9、G11、G14、G15の目標達成に繋がり、SDGsの意識付けができる。

来年度から中学校の標準制服の変更は、G5、G10、G12、G13等多くの目標に係る。令和の時代において、子ども達一人一人が、自らの可能性を認識し、他者の価値を尊重し、多様な人々と協働しながら、環境の大きな変化を乗り越え、豊かな人生を切り開き、持続可能な社会の創り手となる様、質の高い教育の実践に努めて行く。



2030年を目標達成年とするSDGsの17目標（ゴール）

常任委員会の動き

町内行政視察研修等

総務経済常任委員会と文教福祉建設常任委員会の委員会活動の報告をします

総務

経済

標津町における『自治体SDGs推進』の取り組みに関して、企画政策課吉田課長より説明を受けた。

その中で吉田課長は、「各職員、各部署が、『自分ごと』として認識し、全庁的に取り組む意識を持つ事が重要。既に取り組んでいる施策や事業を『標津版SDGsゴール』に基づき、紐付けする事から始めている。同時に『標津町まち・ひと・しごと創生本部』にSDGs推進を位置付け、SDGsの視点による事業評価をし、その結果を『まちづくり計画』へと反映し、政策展開を計る事を目指している。」と述べた。

図版参照

図版

SDGsの『まちづくり計画』への反映の概略

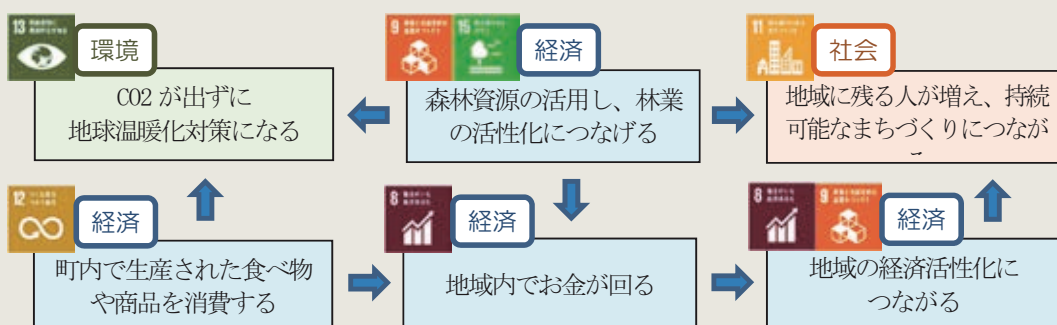
- ◇ 多様な主体の参画を促していく SDGs の取り組みは、政策展開の実効性をより高めていくために効果的な手法である。



SUSTAINABLE
DEVELOPMENT
GOALS

- ◇ 市町村の総合計画や総合戦略の新規策定・改訂の際に、SDGs の要素を取り入れる自治体が増えている（全道の4割超）
- ◇ 市町村総合計画等をベースにまちの将来を検討するのは、掲げる政策の推進との親和性も高く、SDGs 推進の手法として有効
- ◇ まちづくり計画に掲げる主要事業ごとに SDGs ゴールを設定し、事業推進の意識づけを行っていく

SDGsの視点で課題を解決 ～ どのような取り組みを『したら、「経済・社会・環境において地域に高い効果が得られるか」を考えることが重要



第7回（6月27日）
総務経済常任委員会

★SDGsを「まちづくり計画」に活用すると、これまで捉えきれなかった「まち」の課題が確認できる。↓課題解決の取り組みが見えて来る。

文教

福祉

建設

第5回(5月23日)
文教福祉建設常任委員会

雪氷熱利用備蓄実験施設の現状視察

平成31年より雪氷熱を利用した低コストでの食品保存の実験調査を続けている。

令和3年7月に続いて住民生活課から実験の現状について説明を受けた。

昨年度の実験結果

- ★侵入熱が予想以上に多く氷の融解を早めた。
- ステージ1(氷と水が混在するも氷が支配的)室内温度がおおよそ4℃(4月14日～7月7日)
- ステージ2(氷と水が混在するも水が支配的)室内温度がおおよそ4℃～7℃(7月7日～8月12日)
- ステージ3(水のみ)室内温度がおおよそ7℃～15℃(8月12日～8月30日)



住民生活課：和田室長より説明を受ける委員会メンバー



本年度の実験

★直射日光が当たりやすい南側外壁に断熱材を貼付。室内の側面・天井に3cmのスタイロ

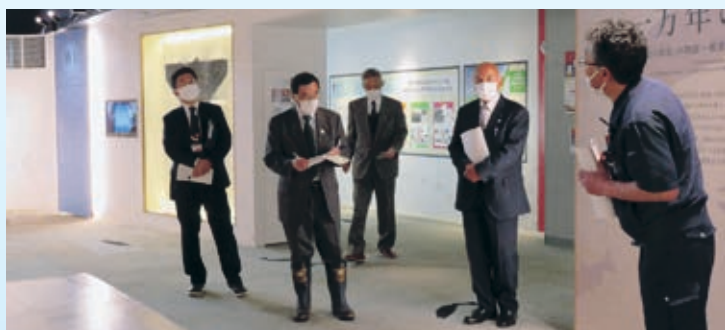
フォームを増し貼りする等対策を講じ、9月上旬までは、氷が融解しないとの前提条件で実験中。さらに、タラの芽の出荷時期調整の実験、ノリウツギ関連への応用を模索する。

日本遺産『鮭の聖地』エキシビジョンルームを視察

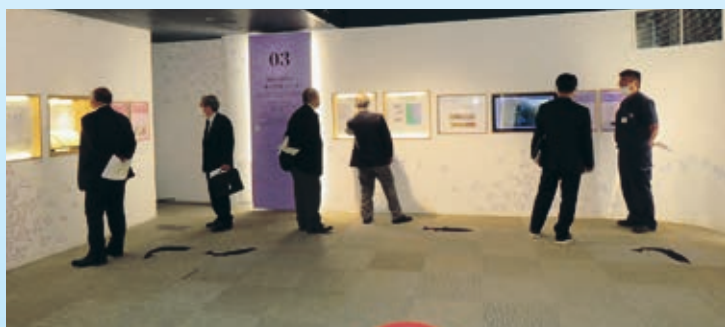


上記の視察後、日本遺産『鮭の聖地』エキシビジョンルームにリニューアルされた、サーモン科学館2階展示場を視察した。委員からは、「展示方法

等の工夫が随所に施されており、見学しやすい配置となっているが、スペースを活用し、展示物を増やせないか」等の意見があった。入館者の増加を期待する。



サーモン科学館：市村館長より「エキシビジョンルーム」の説明を受ける委員会メンバー



「エキシビジョンルーム」の展示物を視察する委員会メンバー

令和4年度 標津町議会議員団町外視察研修

7月7日 於:ウボポイ(民族共生象徴空間)(白老町)

研 修 報 告

北海道町村議会議長会主催

令和4年度 北海道町村議会議員研修会

7月6日 於:札幌コンベンションホール

標津町議会議員団

標津町議会議員団(定数10名)は、9議員が7月6日の北海道町村議会議員研修会に参加し、7月7日に町外視察研修を挙行了しました。

北海道町村議会議員研修会

令和4年度の北海道町村議員研修会が7月6日に、札幌コンベンションセンターに於いて開催され、田中議長以下、総務経済常任委員会5名、文教福祉建設常任委員会3名が参加した。(下記の講演を傾聴)

この研修会は、北海道町村議長会が、議員の資質向上の為、毎年7月のこの時期に開催されており、標津町議会では、二つの常任委員会が、交互に参加していたが、コロナウィルス感染症予防のため一昨年、昨年と2年続けて中止となった事から、本年は、両委員会に参加した。

(来年以降は交互で出席する予定である)



<ホールにて>～研修会場における議員団～<入り口にて>

講演

(午後3時～
午後4時30分)

【講演テーマ】

参院選挙最終情勢分析
と選挙後の政局展望

講師

政治ジャーナリスト
泉 宏氏
いずみ ひろし



講演中の泉講師

プロフィール

1947年
東京都生まれ 75才
早稲田大学卒業
時事通信社入社

政治部記者として、

田中角栄首相の総理
番で取材活動を始める。
自民党クラブ、外務省クラブ、法務省ク

ラブ、労働省クラブを経て、1986年…自民党クラブキャップ。1990年…政治部次長兼官邸クラブキャップ。1994年…政治部デスク専任。1998年…政治部長。2000年…編集局総務兼解説委員。2002年…福岡支社長。2004年…内外情勢調査会常任理事。2006年…時事通信社取締役編集担当。2009年…日本記者クラブ企画委員・東京財団研究員。2013年…(株)テクノライクス顧問。2014年…日本賢人会議所理事他を歴任。幼少時より都心に住み、半世紀以上も永田町・霞が関で『政治』を見続けて来た。『生涯一記者』が、氏のモットーである。

標津町議会議員団町外視察研修

令和4年7月7日
午前10時～午後2時30分
のスケジュールで、白
老町の民族共生象徴空
間【ウポポイ】の現地
視察研修を挙行了した。

公益財団法人アイヌ
民族文化財団・民族共
生象徴空間運営本部・
太村企画調整課参事方
の案内の下、先住民
アイヌの世界観を堪能。



入り口でウポポイPRキャラクター『トゥレップン』と記念撮影



～“森と湖”自然環境に恵まれたウポポイのイメージ図～ 提供：(公財)アイヌ民族文化財団



ウポポイの
ロゴマーク



民族共生象徴空間【ウポポイ (UPOPOY)】



ウポポイPRキャラクター
トゥレップン

トゥレップ(オオバ
ユリ)の年頃の女
の子。
性格はのんびり
屋さん。

民族共生象徴空間【ウポポイ】は、我が国の
貴重な文化でありながら存続の危機にあるアイ
ヌ文化を復興・発展させる拠点として、又、将
来に向けて先住民の尊厳を尊重し、差別のな
い多様で豊かな文化を持つ活力ある社会を築い
て行くための象徴として位置付けられています。
アイヌの歴史・文化を学び伝えるナショナル
センターとして、アイヌ文化を様々な角度から
伝承・共有すると共に、人々が互いに尊重し共
生する社会のシンボルとして、又、国内外、世
代を問わず、アイヌの世界観、自然観等を学ぶ
事ができる様、必要な機能を備えた空間です。
愛称である【ウポポイ (UPOPOY)】とは、
アイヌ語で「(大勢で) 歌う事」を意味します。

企画調整課太村参事方の説明に展示物・眺望・映像を注視する議員団



寄稿



標津町立川北小学校
校長 丹野 聡

自分たちの花(願い)を咲かせよう！

川北小学校では、「自発的に、調整しながら、仲間とともに、学びを深めていく」子どもになるための学校として、「こんな花を咲かせたい！」「いつ咲こうかな？」「みんなで咲くのも楽しいね！」「次はこうしたい！」という子ども達の姿を大切にした教育活動を行っています。

標に向かつて、必要な学習道具を持ち寄って取り組んでいます。その中で、高学年の子が教える姿や、「六年生になったらこんな勉強するんだね！」などと会話する姿も見られています。自分たちで豊かな学びを作る経験に結びついていきます。

調べたり友達や先生に尋ねたりしながら進めています。先生は、子ども達の様子を見取り、サポートをしていきます。子ども達が自分に合ったペースや学習方法を自分で調整していけるようになる経験に結びついていきます。

○異学年で学び合う「学びタイム」

これまで行ってきた縦割り班掃除を生かし、掃除が終わったからそのまま続けて縦割り班で学習に取り組む「学びタイム」を行っています。子ども達は、自分で立てた目標

○自分で調整しながら学びを進める「マイプラン学習」

学習の単元で目指すゴールとチェックポイントを先生と子ども達で確認した後は、自分たちのペースと方法で進めていく学習を行っています。子ども達は、得意な内容はグングン進め、苦手な内容は

○地域の中で豊かに体験する「放課後ちいきあそび」

四年生から六年生を対象に、週一回、放課後の一時間程度の時間で、地域体験活動を進めています。



水口郁恵地域体験コーディネーターを中心に、地域の自然や経験豊富な方々とつながり、またPTA活動とも連携しながら、授業では味わえない



【令和4年度 川北小学校「学びのイメージ」】

いダイナミックな体験を企画していきます。第一回目のオリエンテーションと自然体験では、子ども達が生き生きと遊び、発見する姿が見られました。子ども達が、地域の良さを感じ、新たな発見を大切にしていけるようになる経験に結びついていきます。このような教育活動を行っているのも、協働してチャレンジしていける教職員をはじめ、協力的で行動的な地域・保護者の皆様による環境(豊かな土)があるからだと思っています。今後とも、子ども達が何度か花を咲かせることのできる「生きた力(しつかりとした根)」を伸ばしていけるよう、子ども達と共に創っていきたく考えています。



▼「水の惑星」と呼ばれる地球。然しながら、私達の生活に使える水(淡水)は、全体の僅か0.01%に過ぎません。▼世界の中で「水道水をそのまま飲む国」は、日本を含めて9箇国しかないのです。▼山口町長の町政執行方針の「一箇所の水源に頼らない新たな水道水源の開発調査」は、「持続可能な標津構築」の大宗をなす政策です。▼『第二の水瓶の確保』は、SDGsの次の5つの目標に関連して来ます。

関連するSDGsの目標



(吉田 智)

議長 田中 孝幸

広報特別委員会

委員長 大垣 吉田
副委員長

勇智

委員 山崎 英司
委員 山崎 陸郎